

- 公共施設は、地域の景観を形成する大きな要素の一つです。
- 山梨県 美しい県土づくり推進室では、景観に配慮した公共施設の設計を実践的に習得するために、平成26年度から『景観設計職員研修』を実施しています。
- 対象者：県公共3部（森林環境部、農政部、県土整備部）職員、県内市町村職員
- 講師：堀 繁 氏（東京大学アジア生物資源環境研究センター・センター長 教授）
- 研修概要：
 1. 講師より「景観の基礎」について講義。
 2. グループ演習により、受講者自ら景観に配慮した設計を行う。
 3. 現地研修を行い、講師より「良い景観」「悪い景観」の解説。

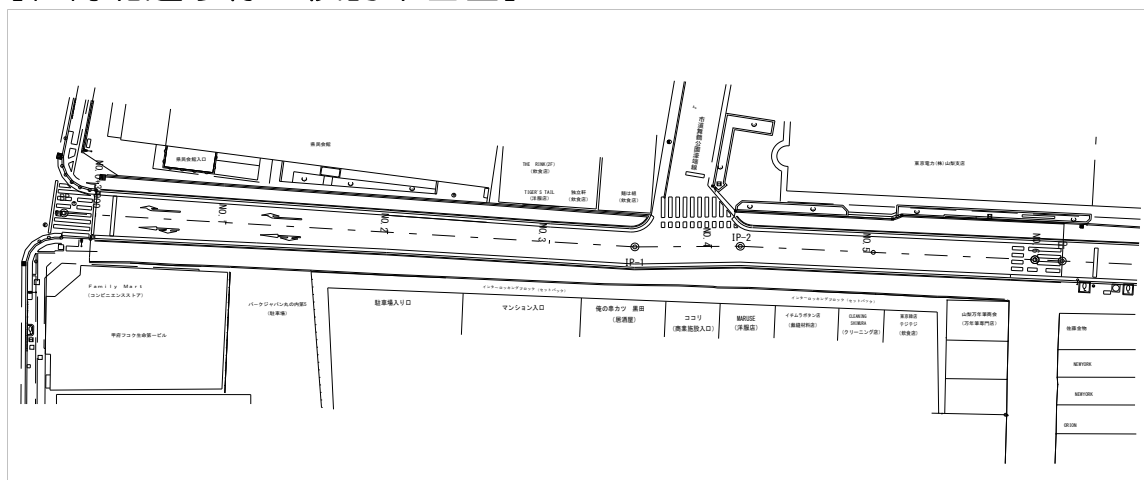
【H27年度実績】

- 参加人数：55名
（うち市町村職員5名）
- 研修スケジュールは、右記のとおり

日時	時間	内容	詳細等
1日目 9/25(金)	9:00～11:00 [120分]	全体講義	・演題:「景観の理論～公共整備における景観配慮のポイントは何か～」
	11:00～12:00 [60分]	演習講義	・グループ演習を行うための講義
	13:00～15:00 [120分]	グループ演習①	・道路線形の検討 → 班毎発表
2日目 9/30(水)	9:00～11:00 [120分]	現地研修	・県庁周辺を徒歩移動
	11:00～12:00[60分]	グループ演習②	・舗装デザイン、休憩スペース設計、ベンチ・植栽のレイアウト
	13:00～15:00 [120分]	グループ演習③	・演習②の続き →班毎発表

■紅梅北通り線をモデルとし、道路利用者（歩行者）をもてなすための道路空間設計を班毎に実施。

[紅梅北通り線 検討平面図]



良い景観とは・・・

- ① 見たいものが見やすい状態にあること。
- ② 自分のことを大事にしてくれていると、見てとれること。
(ホスピタリティにあふれている状態)



②に着目し、歩行者を大事にした居心地の良い道路空間となるよう班毎に下記の課題に取り組みました。

- ◆自動車の走行速度を落とすために、道路線形にスラロームを加える。
- ◆スラローム化して生まれた空間に休憩スペースを設計する。
- ◆休憩スペースには多くのベンチを配置し、自己領域（あなたのための空間）を形成する。
- ◆歩道舗装、休憩スペースの舗装のデザイン設計を行う。





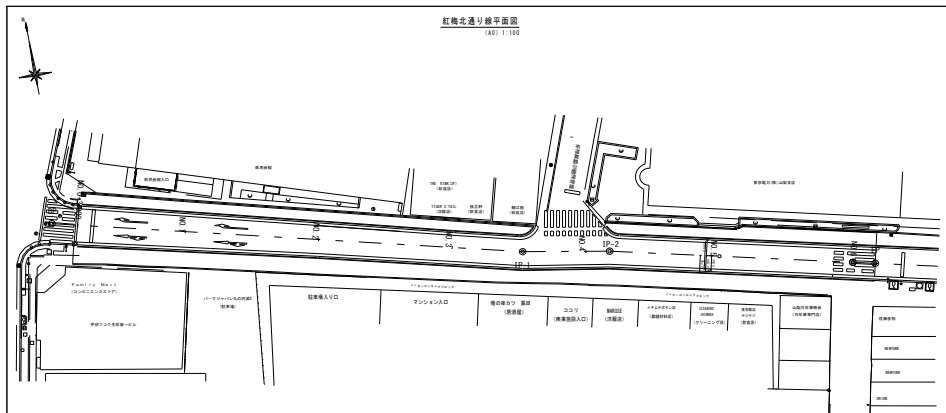
県庁周辺の①～⑤を歩きました。
各箇所では堀先生より、解説して頂き、新しい視点で街を見ることが出来ました。



研修成果の一部紹介

※舗装デザイン設計は、鉛筆1本により2色（白黒）のみでの検討としました。

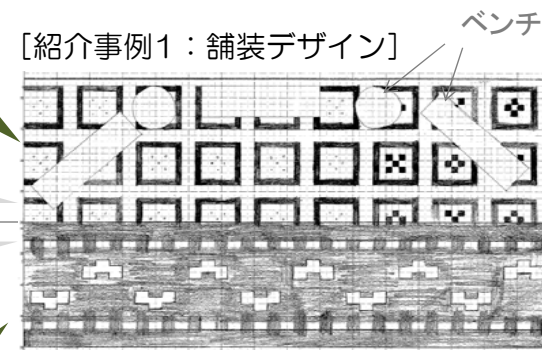
[元図面]



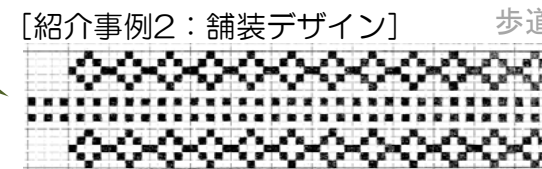
グループ演習の結果、ホスピタリティにあふれた道路空間となりました。

休憩スペースと歩道で、舗装のデザインを変えるだけでも、自己領域を形成することができます。

休憩スペース
歩道



歩道に、ゲシュタルト(図)の形成によるアフォーダンス(人を導くデザイン)を入れることで、歩行者を快適に誘導することができます。



[紹介事例3：道路線形の変更と休憩スペースを設けた平面図]



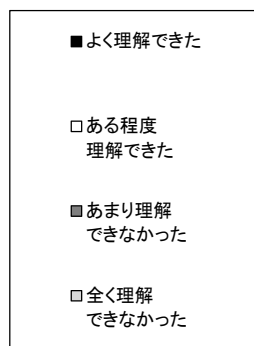
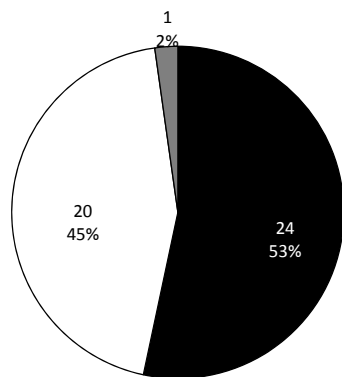
車道をスラローム化し、自動車の走行速度を軽減することで、歩行者をもてなします。

ベンチの両脇に街路樹を置くことで、自己領域を形成し、居心地の良い空間となります。

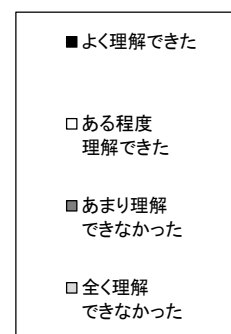
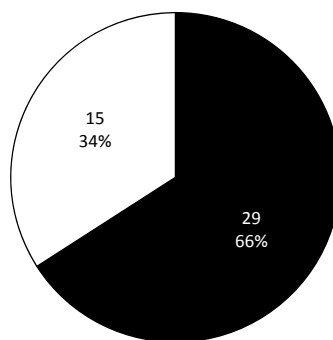
ベンチに座って楽しそうにしている人達を見ることで、歩行者も楽しい気分になります。

- 景観に対する考え方が変わった。今まで、様々な研修を受けてきたが、ここまで話を聞いて、のめりこんだのは初めてだった。
- 景観の意味が理解できた。景観とは、お金をかければ良いと思っていた。
- 良い景観、悪い景観の要因を具体的に解説されたため、理解が深まった。
- 景観が全く主観的なものではなく、指標があることに気づかされました。
- 技術よりも大切なものがあるとわかった。もっと早く全職員が研修を受けるべきだと感じた。
- 自分の設計で、県内の景観をより良くしていきたい。

[グループ演習について]



[現地研修について]



⇒平成28年度についても、同様の内容で研修を実施します。